若者等を対象とする総合戦略策定に向けた懇談会

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 日時 | 内容 | 団体名 | 会場 | 参加人数 |
| ９月８日  10：20～11：30 | 子育てに関すること | 有識者会議  委員関係者 | 諏訪湖ハイツ  １階会議室 | ４人 |
| ９月８日  14：20～16：30 | 結婚に関すること | しあわせサポート部 | あいとぴあ  Ｇテラス | ５人 |
| ９月10日  11：05～11：45 | 妊娠・出産に関すること | 乳幼児親子  ふれあいの集い  （中村区） | 中村区民センター | 16人 |
| ９月10日  19：00～20：40 | 子育てに関すること | 有識者会議  委員関係者 | 諏訪湖ハイツ３１０研修室 | ５人 |
| ９月11日  11：00～11：35 | 妊娠・出産に関すること | 乳幼児親子  ふれあいの集い  （小井川区） | 小井川区民会館 | 12人 |
| ９月28日  16：00～16：50 | Uターンに関すること | 岡谷東高等学校 | 岡谷東高等学校応接室 | 10人 |
| 10月１日  14：00～15：00 | Uターンに関すること | 岡谷南高等学校 | 岡谷南高等学校応接室 | ５人 |
| 10月３日  ７：30～９：15 | ひとの流れに関すること | だもんで | だもんで | ７人 |
| 10月14日  16：00～17：00 | Uターンに関すること | 岡谷工業高等学校 | 岡谷工業高等学校会議室 | ６人 |
| 合計 |  | ９団体 |  | 70人 |

■子育てに関すること

・出産費用のほか、服や雑貨などを考えると一人目を生むのが大変。

・子どもの服、雑貨をお下がりとして提供できる仕組みが欲しい。

・産婦人科の妊娠検査には保険がきかず、補助が出ないので出費が大きい。

・二人目は子どもを見ながら病院に通うのが大変。市内に産科が少ないので、一日がかり。市民病院の分娩の再開を。小児科や耳鼻科の専門医がほしい。

・学生として都会へ出て、戻る理由は就職。女性は特に難しい。

・子どもが自分たちで行って遊べる場所があまりない。

・近くに安心して遊べる公園が少ない。（複数）公園の整備（除草、清掃など）、遊具の設置をしてほしい。

・病院では年子にならないようにと言われるが、保育園の第二子が同時に入園した場合に半額になるのはおかしい。同じ第二子でも期間をあけずに産めば安くなるのは不公平。

・第三子9割減免について、18歳以上も認めて欲しい。高校、大学でお金のかかる時期。

・岡谷は魅力がない。岡谷よりも諏訪。諏訪よりも茅野。生活の中でよいほうへ行きたい。

・女性に魅力のあるまちがよい。

・住みよいまちランキングを見ると本当に魅力的。子どもの環境、お金。全て生活の道すじができている。中学にあがるまでそろっている。同じ県内でも選んでもらえるようになる。

・もっと市内の観光で女性の目の向くことを。若い人の来られるまちにしないと外へ出ていってしまう。空き家を有効活用しては。

・母子家庭に手厚く支援をし、そういう人をターゲットに人口増を図ってはどうか。

・一時保育を利用しにくい。もっと気軽に頼めれば二人目を作りやすい。休みは取りにくいので、安心してあずけられる子育て支援施設を増やし、子育て支援を。

・中学まではよくても高校、大学になると経済的負担が大きい。

（子育てと仕事）

・仕事との両立について、出産後の復帰は子どもをどうするかがポイント。

・出産は若い方がよいが、仕事がのってきたところで仕事を離れることになり、ブランクができてしまう。

・独身者は子育てをしている同僚にあまり関心を持たない。周りの理解がないと難しい。３世代同居は少ないので、受け入れる側の上の世代、経験のないひとの意識改革をし、周りの支援をもらいながら仕事ができる環境づくりを。

・一度退職すると仕事に戻れない人が多い。復帰できる保障があれば大きい。

・アピタは買い物だけではなく、雇用に向けた期待も大きい。

・資格取得の優遇措置があればうれしい。結婚、出産してから資格を取ることはお金、時間の面から難しい。家族の理解も必要。

・一人当たりの給料水準が低い。

・ものづくりのまちだけでは若い女性の就職先が少なく、人口流出の要因となってしまう。

・働きたいと思った時に条件にあう仕事が見つかるかどうか不安。

・子育てと両立でき、やめなくてすむのであればそのほうがよい。

・３歳までは自分で見たいが、保育園に入れば働いてもいいと思う。

■結婚に関すること

・独身者は子育てをしている人の生活を見て大変だと思ってしまう。結婚に対して魅力を感じられない様子。楽しいことが多く、結婚しなくても困らない。

・少子化は自分には関係ないと思っている。結婚・家族を持つことがよいと思っていない。

・独身女性がお金を稼いで、男性と同じ生活をすることができる。

・企業間の女性と男性の出会いの場を作ってはどうか。

・大学の奨学金を払うまでは結婚できないなど、奨学金に縛られることも多い。

・女性が働いて稼ぐ選択肢もある。

・結婚希望もあるが、就職して安定してからとの意見も。子どもは３人希望が多い。

■妊娠・出産に関すること

・家を建てるのと３人目がほしくなるタイミングが重なり、家を優先する人が多い。家を建ててからでは高齢出産になり不安。３人目を産む人への住居の補助があれば。

・性教育の必要性。年齢で出産リスクが高くなる。小さい頃からの知識も大切。

■Ｕターンに関すること

・やりたいことがあり、地元ではできない。資格を取るためには進学先が限られる。

・ずっと地元で過ごしてきたので住み心地がよいが、地元での就職は難しい。

・就職先があれば地元へ戻る。給料などの安定、土日休み、産休などの福利厚生の充実。

・放課後はアピタに行っていた。学生が気軽に立ち寄れる店、若者の服が買える店が欲しい。娯楽施設、商業施設が充実すれば。ラウンドワン、カフェ、ファストフード店など。

・芸能人のコンサート。カノラは小さい。

・物を買うのは遊びに行く感覚なのでなくてもよい。大学、マンションなど、そこに人が住まなければいけない状況を作るのがよいと思う。また、大学と関連した職種があればよい。

・大学が欲しい。理科大の授業料高い、交通の便が悪い。

・製造業のイメージはマイナス面＝力仕事、体力的にきつい、プラス面＝土日休み。

・自然を豊かに。空気がきれいなので岡谷へ来る人もいる。きれいで安心感がある。都会は汚れているイメージ。

・親元を離れるが、男性は比較的戻ってこない傾向。女性は今から心配なので、地元に居続ける、何かあれば戻ってきて親の面倒を見ることも考えているとのこと。

・東京や名古屋などどこに行くにも便利。

・日常生活に使う電車やバスなど交通の便がもっとよくなればよい。

・高校生が集まれるスペース。イルフプラザはよいが、勉強以外で集まれるようなスペース。

・イルフプラザ音楽室はあまり知られていないので、周知を。

・夏祭りはどこにでもあるので、諏訪でしかできないイベントをもっと際立たせて。

・近くに海外便の空港があればもっと人が増えるのでは。

・工場見学ができるところ。その工場目当てに来てくれるのでは。試食や試飲。

・インターンシップでは、企業によって対応が異なる。実習のような形、作業、見習いなど。また、残るものをもらえれば後から思い出すきっかけにもなる。

■ひとの流れに関すること

・土地購入・新築は自分たちの年代ではほぼありえない。自治体を選ぶ理由を作る。岡谷をおもしろいことができるまちにして、若い人が食いつくきっかけとなればよい。

・空き家対策は制度だけでは無理。市と大家さんがつながり、可能性があるのかどうかだけでもわかれば交渉は本人同士でしてもらえればよい。マンパワーがかなり必要。

・若い人にとっては今の状態が普通なのであって、景気のよい時代が異常という認識。今の人口で楽しいことを考えられれば、岡谷がおもしろいから東京からひとが戻ってくる。

・大学進学後、地元へ戻る人のほうが少ない。どんな就職先があるかわからないので、岡谷に戻っても面白くないのでは。若者が岡谷へ戻ってやってみようというわくわくするものを発信できればよい。

・漠然とした岡谷愛があるのではないか。

・岡谷のイメージは山、うなぎ、星がきれい、諏訪湖の汚れ、においが気になる。観光地にするならお客さんに来てもらえるグルメの開発を。

・帰ってくるタイミングは大学卒業後、仕事を始めて３年くらいで東京がそんなによいと感じられなくなった頃、30歳前後で地元へ戻りたくなったとき。それを逃すと結婚、子育てなどに流され、帰ってこなくなる。そのタイミングで情報発信できれば。

・地域のNo1を目指す。例えばビジネスセミナー、就職説明会などの回数No1。それをメディアで取り上げて会社を知ってもらえる。小さな1番を積み重ね、大きな1番につなげる。

・好きなものがオタク化している。岡谷を取っ払って何かコアになることができれば。

・ターゲットを絞るほどひとが来やすくなる。

・駅前に３Dプリンタラボなどターゲットを絞り、高校生も一般の人も使える工業に特化した施設など他市町村にないものを。

・ものづくり、ひとづくり、建築、農業、お菓子など何かを産み出せるまち、クリエイティブ、思いを形にできるまち、実現できる場所などのキーワードで、箱を作ることよりもその中で人が何を作れるのかに重点を。

・仕事に直結するような岡谷に特徴的な専門知識のある学校を作れば地元に就職するのでは。精密の入力など企業の即戦力となる知識を教える学校があればよい。

・転入時には各市町村の福祉について調べ、比較をしてから転入する。岡谷のいいところをもっとＰＲすることが必要。

・引っ越してくると区が何かわからないので、情報が入ってこない。ＰＲ、周知を。

・区の制度が独特。地元の受け入れ態勢は整っていても、一歩踏み出すことが難しい。